

特集
50万部突破!
「本屋大賞」を受賞した
ベストセラー小説の
「舞台裏」に迫る――

辞書編集部 & 製紙会社 これがリアルな 『舟を編む』 人たち!

今、いちばん話題の本といえばこれ! 辞書編集部の仕事ぶりを描いた小説『舟を編む』。実際に辞書を作っている現場の人たちに、「マジメ、な制作秘話を聞いてみました!

『舟を編む』の舞台となったのは、辞書の編集部。作者の三浦しをんさんが執筆の際に取材したのは、日本を代表する国語辞典『広辞苑』を編集する、岩波書店辞典編集部だ。現在、同社の辞典編集部には17人が在籍。男性9人・女性8人という構成だ。

「年齢的には、私がちょうど真ん中です。いちばん若い人で、20代半ばから後半が2人。上は『舟を編む』と同じように、定年後の再雇用の方が」そう教えてくれたのが、辞典編集部・副部長の平木靖成さん(43)。辞書を編集して19年というベテランだ。趣味は、主人公の馬締と同じで、エスカレーターに乗る人々の姿を、駅のホームなどから定点観測すること。

「説明しにくいんですが、ワシヤワシヤとしていた集団が、ギュッとひとつに整列するのが、見ていて楽しいんです」小説を読んだ人ならお気づきかもしれないが、平木さんのそんな性格が一部、馬締のモデルになっているのだ。実際、三浦さんの取材に応じたひとりでもある。

平木さんが辞典編集部に配属されたのは、入社から1年後の'94年。もともと言葉が好きだった平木さんは、辞書編集という仕事にすぐにのめり込んでいった。

PART 1
主人公・馬締のモデルに聞く
「わが子を辞書の編集者にするには?」
岩波書店辞典編集部
平木靖成さん
興味のある方向がバラバラなほうが、辞書の編集部はいいんです(笑)



辞典編集部は驚くほど静かでした。みなさん、お騒がせしました!



4月10日の授賞式では、全国の書店員に囲まれて記念撮影が行われた
『舟を編む』
ってどんな本?
光文社より1,575円(税込み)で発売中
辞書『大渡海』編集メンバーとして辞書編集部に異動した馬締光也。待っていたのは、先輩社員や監修者など、個性的な面々ばかりだ。予算も人手もない中、編集の仕事に没頭していく馬締。はたして、辞書は完成するのか――。

「縦糸」は解説
「横糸」は整合性
『大渡海』のように、新しい辞書を作る場合は、まず決



富士市内の工場。ロール状の大量の紙はここで裁断されていく

「辞書の編集作業の取材に行ったとき、初めて『ぬめり感』という用語を聞いて。これは、製紙会社に行くしかない、と『舟を編む』には、辞書『大渡海』のページに使われる紙についてのエピソードが登場する。執筆時、印刷会社への取材を考えていた三浦さんだが、『ぬめり感』という、独特の紙の表現に興味を持った。そこで、改めて取材先として選んだのが、『広辞苑』をはじめ100種類以上の辞書の紙を製造する、王子特殊紙株式会社だった。

「『大渡海』に使用されている紙は、まさに『広辞苑』の紙ですね!」

オリジナルのものを開発しました」

06年から『広辞苑』の紙を納入している同工場。編集部が要求する風合いを出すため、開発には5年の月日を費やしたという。では、そのこだわりポイントとはどこに?

まず何より大事なものは、紙の「薄さ」。たとえば小学生用の辞書なら、乱雑に扱っても大丈夫なように、厚めの紙になっている。しかし、大人の辞書はそうはいかない。

「『広辞苑』の場合、製本の関係上、1冊の厚さの上限が8センチなんです。しかし、版を重ねるたび、掲載する語数がどんどん増えていくので、それに合わせて紙はどんどん薄くなっています。読者の方が読みやすいように、行の間を詰めたり、文字を小さくするということとは極力、避けた」と聞いていますので

「ところが、薄さにこだわると、今度は別の問題が発生する。印刷が透けて裏の文字と重なり、とても読みにくくなってしまふ恐れがあるのだ。」

そこで、大事になってくるのが「不透明度」だ。紙に適量の薬品を混ぜることで、紙が透けるのを防いでいる。

「これこそ、技術者の腕の見せどころなんです。経験と技が重要になってきますから」

そして、「色合い」もこだわりのポイント。最近、辞書もカラー印刷が増えてきたため、とくに中学生向けくらいまでの辞書では、純白の紙を使用することが多い。しかし、対象年齢が高くなってくると、ナチュラルなクリーム色の紙が主流になってくるという。昔の教科書が、その色の紙を使っていた名残りだそうです。

「『広辞苑』の場合もクリーム色ですが、自然に近い黄色に、うっすらと赤を入れた、クリーム色になっています。これは、目が疲れないうようにするためです」

家に『広辞苑』第六版がある人は、確かめられるはず。1枚1枚のページは、一見、単なるクリーム色にしか見えないが、ページの端を束にして、丸めてみると、ほんのりと紙に赤みが差す。これが、赤い色を使っている証拠だ。色や薄さを実現させるため

『ぬめり感』という言葉は、実際に現場で使われているんです



王子特殊紙 東海工場 楠澤 哲さん

PART 2 「究極の辞書用紙」をめざした紙のプロジェクトによる試行錯誤の日々!



平木さんの手帳には、たまたま見かけた見られない言葉がメモされていた

「『大渡海』は新しく作る辞書ですから、起こるかもしれません。ただし『広辞苑』については、新語を増やすというのが中心ですから、どうしても新たにないといけないうという言葉はありません」

新語といえば、小説に登場する『大渡海』の監修者・松本先生。つねに「用例採集カード」を持ち歩き、聞いたことのない言葉をメモしている。三浦さん自身が、いちばん思い入れのある、と語る登場人物だ。

そのモデルとなったのは、かつて『三省堂国語辞典』を編集した日本語学者、見坊豪紀。亡くなるまでにカードに

辞典作りは社会の「土」作り

今回、小説のヒットで、辞書を編集、編集してみたいと

「私の知らない言葉が、たくさん載っていますから。いつも気になります」

そして、実際に辞書を編集するときに必要なのは「縦糸」と「横糸」の発想だ。「縦糸」とは、各用語の解説のこと。そして、そこにはほかの言葉との整合性という「横糸」を通し、全体の統一を図っていく。「たとえば『右』という項目があったら、『左はどうなっていたっけ』とか、『ここをこう変えたら、こっちにも影響するんじゃないか』と、絶えず

言葉に気配りをしています」

こうして作られる一冊の辞書は、『大渡海』のように、ゼロから作れば最低7〜8年かかる。改訂さえ、3〜4年の時間を要する作業だ。長い期間、仕事へのモチベーションを保ち続ける秘訣は?

「遠い将来に向けての全体像を見ておきながら、とりあえずは半年後、といった近い将来の目標に向けて……を繰り返しています。山登りというので、先が見えない中で仕事をするのはつらいですがね」

「『舟を編む』の反響は私自身、肌で感じていますので、辞書の仕事をしたいという人が増えると、うれしいですね。でも作品の中でいえば、馬蹄さんもほかの人も、辞書の編集現場には必要なんです。スポーツが好きで、音楽に強



採集された言葉は、パソコン上で管理。新しい辞書には何が採用される?



プロのオススメ辞書10

『王様のランチ』(TBS系)などでおなじみ、ブックコメンテーター市川真人さんが、オススメの10冊をセレクトしてくれた。「国語辞典には、20万語と驚くほどの言葉が詰まっています。『調べるもの』と構えず、『読むもの』として親しむと、遊び感覚で楽しめます。見出しだけ読んでも面白い。辞書1冊で知らない世界に出会えますよ」。

- 1 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 2 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 3 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 4 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 5 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 6 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 7 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 8 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 9 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 10 『新明解国語辞典』(三省堂)

- 1 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 2 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 3 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 4 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 5 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 6 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 7 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 8 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 9 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 10 『新明解国語辞典』(三省堂)

- 1 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 2 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 3 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 4 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 5 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 6 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 7 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 8 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 9 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 10 『新明解国語辞典』(三省堂)

- 1 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 2 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 3 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 4 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 5 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 6 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 7 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 8 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 9 『新明解国語辞典』(三省堂)
- 10 『新明解国語辞典』(三省堂)

「馬縮の恋人、香具矢は、無口で職人気質。女性だが、俳優の高倉健がモデルだという。じつは三浦さん、任侠映画が大好きなのだ。ちなみに作品には「トラさん」なるネコも

馬縮が暮らすのは、いまだきかなか見かけない、管理人が住み込みの古い下宿。ここにも、三浦さんの好みが反映されている。音が筒抜けで、隣の人が何をしているのかわかるくらいのアパートが、三浦さんは好きなのだ。

「『ギヤー!』って叫べば、すぐまわりに聞こえるのが、いちばん防犯に思うんです。絶対にタワーマンションには住みません(笑)」

「『真面目な人に合う名前がいいと思って、『そんな名前あるかな?』とネットを検索したら、ヒットしたんです。実在する名字なんですよ」

馬縮が暮らすのは、いまだきかなか見かけない、管理人が住み込みの古い下宿。ここにも、三浦さんの好みが反映されている。音が筒抜けで、隣の人が何をしているのかわかるくらいのアパートが、三浦さんは好きなのだ。

「言葉が書いてあるものには、魂がこもっている感じがするからじゃないでしょうか。新聞ですら、踏んで歩けないという感覚が日本人にはあると思います。そこに自分の使った『足跡』が残されているなら、なおさらです」

生まれの瞬間から古くなっている辞書は、永遠に終わらない生き物なんです

PART 3 著者・三浦しをんさんが語る辞書の魅力とは?



「日々、本に接して、著者と読者をつないでいただいている、書店員の方に選んでいただき、本当にうれしいです」

『舟を編む』の作者・三浦しをんさん(35)が、「本屋大賞」受賞の喜びを語る。話題の本の、気になる「舞台裏」と、辞書への思いを聞いた!

まずは主人公の「馬縮光也」という名前。不器用だが実直な、性格そのままの名前だが、その由来はどこから?

「真面目な人に合う名前がいいと思って、『そんな名前あるかな?』とネットを検索したら、ヒットしたんです。実在する名字なんですよ」

馬縮の恋人、香具矢は、無口で職人気質。女性だが、俳優の高倉健がモデルだという。じつは三浦さん、任侠映画が大好きなのだ。ちなみに作品には「トラさん」なるネコも



中国で1827年に出版された『康熙字典』第1巻(国立国会図書館蔵)

「現代でいえば、大臣クラスの高官に字典の作成を命じました。30人のスタッフが約6年の歳月をかけ、1716年に完成しました」

字典は全42巻で12集に分かれ、第1集が「子集」というように、各集に十二支の名前がつけられている。4万7千35の文字が、24の部首順、画数順に並べられているが、この配列は、現在の漢字字典の配列の基礎になり、さらにはコンピュータの文字列の世界標準である「ユニコード」内の、漢字コードの配列順にも使われている。

「文字の下には詳しい注釈がつけられていて、それまでの多くの字書や、儒教経典をはじめとする書物からの引用例も多く、たいへん利便な本です」(古屋教授)

完成から4年後の1720年には、早くも日本に入ってきたというこの字典は、今なお、漢字文化に影響を与え続けているのだ。

2 全42巻、4万7千文字を収録した『康熙字典』

1716年

辞書編集部配属された新人から「正字」について質問された馬縮は、こう答える。

「基本的には、『康熙字典』に基づいた正規の字体のことです」

『康熙字典』は、中国語(漢字)の字典。18世紀、「名君」といわれた清の皇帝、康熙帝により、漢代以降の中国の歴史辞書を集成しようとして作られた「夢の辞書」だ。あまりに短期間で作成されたためか、その後、多くの補正が繰り返されている。しかし、今も出版界などでは、正字を調べる場合、最終的にはこの字典にまでさかのぼる。

三浦さんの学生時代の恩師であり、中国語辞書の編者でもある、早稲田大学文化構想学部・古屋昭弘教授に聞いた。



『言海』はさまざまな判型で出版された(一関市博物館蔵)

昭和3年、82歳で亡くなってしまふ。3分の2がすでに完成していたため、その後の作業を実兄や新村出(『広辞苑』初版の編者)らが引き継ぎ、昭和10年、改訂版の『大言海』が完成した。現在も、語源を引くための辞書として、研究者に重宝されている。

「大槻が辞書編纂に情熱を捧げた理由に『国語の確立が独立国家の証しだ』という思いがあったのは間違いありません。植民地支配された国々で母国語が話せなくなっていた時代でしたから」(小岩さん)

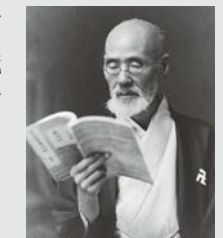
『舟を編む』に登場する、ひとりの研究者が情熱をかけた辞書「大渡海」。そのルーツはこの辞書かもしれない。

1 たったひとりで16年かけて編纂した『言海』

1891年

作品中、馬縮が辞書を作る覚悟を確かめるため手に取ったのが『言海』。国語学者・大槻文彦が16年の歳月をかけた明治24年に完成させた、全4冊、3万9千103語収録の、日本初の近代的国語辞典だ。

編纂作業は明治8年、文部省(当時)の仕事として開始。当初、大槻は、英語の辞書を和訳できると考えていたが、文化や自然が違いため、人々の言葉を一から集めることに。しかしその後、原稿は文部省



大槻文彦は28歳で『言海』編纂を開始した(写真・一関市博物館提供)

でお蔵入りとなっていました。大槻は、文部省から原稿の払い下げを受け、私財をなげうち辞書を自費出版する。

大槻と『言海』について研究する、一関市博物館(岩手県)の小岩弘明さんが語る。

「当時の伝統だった『いろは順』ではなく、合理的な50音順を採用。また、巻頭に収録された『語法指南』により、日本語の文法を体系化し、文法研究の基礎を築きました」

後に大槻は、66歳で『言海』の大幅な改訂に着手する。しかしその完成を見ることなく、

【広辞苑】巻末には、王子特殊紙の名前もクレジットされている

本文用紙	王子特殊紙株式会社
表紙用クロス	ダイニツク株式会社
見返しカバー用紙	特種製紙株式会社
本文製版	株式会社DNPユニプロセス
本文印刷	株式会社朝日新聞印刷株式会社
本文刷り	株式会社加藤製本所
本文製本	株式会社加藤製本所

「たしかに『ぬめり感』というのは、現場で実際に使われているが、『広辞苑』独特の言い回しですね。ほかの辞書などの注文では、聞いたことがありません。初版のころから、ページのめくりやすさを求めるため、『ぬめり感』という独特の質感にこだわっていたら、作中の表現を引用すると、

「めくろうとすると、紙が指の腹に吸いついてくるようだ。かといって、次の紙も一緒にめくれてしまったり、静電気が起きて指にまとわりついてたり、ということはない。乾いた砂のようにさりげなく、指から離れていく」というのが、完璧な「ぬめり感」だそう。

主人公・馬縮も、そこには並々ならぬこだわりを持っていた。「〇〇以内」など、数字の条件内に収める作業は、技術さえあれば問題はない。しかしこの「ぬめり感」のよ

うに、人間の感性・感覚に合

「権威ある辞書の紙を自分たちの手で作っているというのは、何よりの誇りです」

ところで、作中で製紙会社の社員は、辞書編集部

「最初に先輩から『紙は女性のように(優しく)扱え』と教えられたという。それだけ大切に扱った紙が、辞書となった際には、その姿を見るために必ず本屋さんに足を運ぶという楠澤さん。その喜びを実感するときに、いちばんの幸せだと語る。

「権威ある辞書の紙を自分たちの手で作っているというのは、何よりの誇りです」

ところで、作中で製紙会社の社員は、辞書編集部

「最初に先輩から『紙は女性のように(優しく)扱え』と教えられたという。それだけ大切に扱った紙が、辞書となった際には、その姿を見るために必ず本屋さんに足を運ぶという楠澤さん。その喜びを実感するときに、いちばんの幸せだと語る。

「権威ある辞書の紙を自分たちの手で作っているというのは、何よりの誇りです」

ところで、作中で製紙会社の社員は、辞書編集部